

第 14 回 市民参加懇談会コアメンバー会議  
- 市民参加による政策検討会議 -  
議事録

1. 日 時：平成 15 年 11 月 20 日（木） 10：00～12：00
2. 場 所：中央合同庁舎第 4 号館 2 階 共用 2 2 0 会議室
3. 出席者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、  
加藤委員、蟹瀬委員、東嶋委員、吉岡委員  
（原子力委員会）竹内委員  
（内 閣 府）藤嶋参事官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：（1）「市民参加懇談会 in さいたま」の開催結果について  
（2）次回の市民参加懇談会の開催について  
（3）その他
5. 配布資料  
資料市懇第 14-1 号 「市民参加懇談会 in さいたま」の概要  
「市民参加懇談会 in さいたま」アンケート結果  
「市民参加懇談会 in さいたま」議事録  
資料市懇第 14-2 号 次回の市民参加懇談会の開催計画について（検討用ペーパー）

6. 審議事項

- （1）「市民参加懇談会 in さいたま」の開催結果について  
事務局より、資料市懇第 14-1 号について説明した。  
（木元座長）
  - ・「市民参加懇談会 in さいたま」開催後、私の方に寄せられたご意見の中に、第 1 部、第 2 部と分けた方法は良かったということがあった。また、今まで来てくださった方のご意見で、これまで第 1 部と第 2 部の司会をそれぞれ別の方をお願いしていたが、分けなくて 1 人の方が第 1 部を把握しながら第 2 部に引き続いて司会してくださるといことの方が良かったのではないかという意見もあった。これもその都度検討しながら進めていきたいと思う。
  - ・さらに、ポスターだけご覧になっている方だと思うが、自分には行けなかったが、当事者の説明はなかったのかというご意見も私の方にいただいた。「当日は東京電力からお出になったし、資源エネルギー庁からお出になった。きちんとその都度説明して、第 2 部の方はその方々とのやりとりが結構あった。」とご説明したら、それなら行けばよかったかなという声もあったので、コアメンバーではないが、当事者がどの程度この会に参加して、第 2 部の一般の皆様からのご質問に対してお答えできるかということをもう少し明確にした方が良かったのかなと、私なりに感じている。
  - ・蟹瀬委員から、司会をなさっていただいて、まずご感想をお願いしたい。
- （蟹瀬委員）
  - ・第 1 部の方はどうしても段取りを踏むような形になったが、第 2 部の方ではかなり突っ込んだ意見が交わされたというのは、司会をしていて非常に印象深かったし、自分自身の知識を深める意味でも、良かった。できれば、さらにもう少し整理した形で話

を進められれば、もう少し深いところへ入れたかなという気はする。いわゆる壇上におられた人数も多かったので、十分にお話ができなかった方もいらっしゃると思うが、その辺のところは私自身の反省点でもある。

(新井委員)

- ・東京電力の方の発言が少し長過ぎたというのはあちこちで言われたので、少し長過ぎたかもしれない。また、あの場でやりとりをするというのはなかなか難しいと感じた。

(木元座長)

- ・会場とのやりとりということか。

(新井委員)

- ・そうである。人数が多いのでやむを得ないが、なかなかかみ合わないことがあった。

(木元座長)

- ・それは第2部の方と考えてよろしいか。第1部は結構やりとりはできたか。

(新井委員)

- ・そう思う。第1部は人数が少ないから何とかなるが、第2部は人数が多く、やりとりは最初から物理的に無理なところがあるのかもしれない。そのところは難しいと思った。

(木元座長)

- ・会場からご質問が来ても、その方のご質問を一般の方が理解できて、一般の方にとっても共通の質問であればまだ良いが、個人的なこだわりに入ってしまう場合がある。

(新井委員)

- ・そう思う。状況に合った質問であれば良いだろうが、全然違う状況でご質問いただくと全体の流れが変わってしまうことがある。

(蟹瀬委員)

- ・そう思う。会場から東京電力の組合の方がステートメントを読むというような状況があったが、ああいうのは避けたい状況ではあった。かいつまんできちんと趣旨を言っていただけの方がありがたい。

(小川委員)

- ・第2部の質疑応答、意見交換の中でテーマがすごく技術的なものに偏っていたと思う。ご意見ご質問の中に数字の羅列があったり、質問された方ご自身もエンジニアをされていたとか、コジェネを進められていたとか、生活する1人1人の主婦とか女性の感覚からかなり離れたご意見が会場から出たなという印象だった。さらに、そういったご意見に対して応答があったため、全体としてかなり技術的に内容に偏ったという気がした。
- ・会場に女性が少なかったのはすごく残念だった。
- ・東京電力の方、経産省の方のご発言の時間的なボリュームがかなりあった。
- ・第1部では、樋口氏のお話が非常に良かったと思う。樋口氏のご発言は、とても本音でお話しになっているように思い、印象深かった。新井委員のお話もすばらしく、パネリストの選定は、全体としてとても良かったと思う。

(井上委員)

- ・埼玉で開き、テーマとした「電力の消費地から安定供給を考える」ということから少し議論がそれたと思う。東電の問題にシフトしてしまった。そうすると、どうしても

技術的な話になってしまう。

- ・女性の参加が少ないことに対しては、事前対策としてもう少し打つ手があるのではないかという感じがした。
- ・会場の参加者の方に技術的な分野に関係している方が多いと、技術的な細部にわたった議論になって、消費地とか消費者とか安定供給という暮らしの方面に話がいかず、テーマと当日の議論の内容と離れてしまうのではないか。
- ・私もパネリスト側に座っていた。確かにコアメンバーは両者の、いろいろな意見をその場で聞く役目だが、聞くのならパネリスト側の場所にいなくても良いのではないか。例えば、フロアの皆さんの横にテーブルを置くのも一案だろう。
- ・ただし、会場の方に後でいろいろ出口のところで聞いたら、我々のような人たちがいるということは、第三の目というような感じがして良いとのことだった。当事者ではない第三の目がいるということは、ニュートラルな部分がきちんと出てきて、良いという意見もあった。座っている身としては、ずっとあそこに座っていて何か落ち着かない感じはしたが。

(木元座長)

- ・そういうご意見は確かにある。いてくださるだけで良いという方もいらっしゃる。当事者から見ると、井上委員のようなご感想をお持ちの方もいらっしゃるが、いつでも答えられる、あるいはいつでも井上委員に聞けるという態勢が良いのかもしれない。

(小川委員)

- ・個人的には、東嶋委員と会場の方とのやりとりが聞きたかったという方のお話も聞いた。コアメンバーと会場との丁々発止というか、そういうやりとりも聞きたいという期待で来た女性も何人がいらっしゃったようである。

(木元座長)

- ・今後のやり方として、例えばコアメンバーからコーディネーターに、会場の方にこの件について聞きたいという発言をしていただいてもいいのかもしれない。そういうことも工夫していきたいと思っている。

(碧海委員)

- ・小川委員や井上委員のご意見と重なる部分が多いが、1つは今回の終わってからのアンケートの中にもあったと思うが、事前にとったアンケートをもう少し利用してもよかったのではないか。私は第2部の途中で、あえて1つアンケート絡みで質問を入れた。埼玉の人たちは電気がどこから来ているのかというと、原子力発電所のあるところから来ている、福島と新潟から来ていると思っているという結果だった。しかし、福島・新潟から主に来る原子力の割合は40%だから、本当は60%は他の県から来ているわけだが、その分がアンケートにはほとんど出てきていないというあたりが、おもしろいと思っていたので、聞いた。今後の課題としても、事前にアンケートをとったら、それをもう少し活用しても良かったと思う。
- ・コアメンバーが前に並ぶのはどうも気になる。だから、サイドとか、一般参加者とは違うがパネリストではないという位置に並んだ方が良いのではないかと思っている。この事後のアンケートを見ても、パネリストとコアメンバーをごちゃごちゃに受けとめている人たちもいる。コアメンバーはあくまでもパネリストではないから、もう少し区別のつく並び方にした方が良いと思う。

(木元座長)

- ・第1部は、ハッキリと分かるようにパネリストとコーディネーターがセンターに座っていただいて、他の人は少しはけている感じにし、第2部のときには横に、もう少し接近した形で出てくるというのはいかがか。私のイメージとしては、円卓のイメージをいつも作りたい。円卓の中に一般の方もいらっしゃるという感じを作りたいと思っている。そういう形で、工夫は幾らでもできると思う。

(碧海委員)

- ・確かに私たちは市民の声を聞く側なのだが、舞台にいて完全に市民の方を向いているのではなく、本当はパネリストに対しても向きたいという気持ちがある。会場の条件に左右されるから、その都度考えれば良いことかとは思いますが、そういう気がした。
- ・先ほど小川委員や井上委員が言われたとおり、もっと生活寄りの意見が欲しかったが、日本人というのは、ああいうところに参加したときのサービス精神というのが、参加者の側に全然ない。自分の発言がほかの人たちとどう関わるかという意識が全然なくて、ただ自分の言いたいことだけを言うというのは、そういう訓練がされていないのではないかという気がした。

(吉岡委員)

- ・一番残念だったのは、席が半分ほど空いていたことである。非常に残念な結果であり、しかもスーツを着た人が非常に多く、平日の真っ昼間に開催するというのは無理があったのではないかというのが一番の反省点である。アンケートをぱらぱら見ると、これについて書いている人も結構多いが、それ以前にあの結果がすべてであって、ほとんど空席だらけだったという状況は何としても次回からは解消したいものだと思う。
- ・なぜ人が来ないのかというと、時間設定のまずさというのもあるが、前々から言っているとおり、政策に影響を与えるという実績が我々にはないということによるのではないか。何らかの影響力を持ち得るならば、出てきたい方というのはたくさんいると、周囲の人から聞いている。そういうことも含めて、たくさんの人を呼ぶにはどうすれば良いかということについて、真剣に議論をすべきだと思う。
- ・内容としては、伴氏がいたおかげで敦賀開催のときと比べると、議論が盛り上がったという点は評価ができる。似通った意見の人だけを集めるのに比べると、異なる意見を持った人を加えるのは良く、特に第1部はおもしろかった。
- ・もう一つの問題としては、新井委員も指摘されたが、東京電力の方が話し過ぎだということは問題である。アンケートを見ても東電の説明会のようなコメントが書かれているが、パネリストでもなくコアメンバーでもなくて、あれだけの時間話すというのは良くないので、事前に我々の方で最長3分、できれば3回ぐらいにお願いするといった方策が必要だと思う。ほかの人はそれなりに行儀良かったが、何か東京電力の説明会のような雰囲気が出過ぎたという気がするので、時間制限と必要以上にはなるべくしゃべらないことが必要である。
- ・そういう時間が費やされた結果として、9人しか市民の側からの発言者がとれなかったというのは非常に残念な結果である。2時間あるのに9人しかとれないというのは、これは相当にまずいことで、せめて15人、できれば20人ぐらいチャンスを与えなければ、200人来ていただくことの意味がないと思う。これだけ時間をとっているわけだから、市民の方に話していただく時間を最大限に確保するという、その精神が

必要で、その意味でも壇上の方は無駄な発言はしないで、あるいは壇上同士でやるのも良いが、それもなるべく少な目という精神でいきたいと思う。私も3分3回ぐらいしゃべった。私のガイドラインだと3分3回。毎回そのように発言しているつもりである。

(木元座長)

- ・いろいろご意見を伺わなければならないが、総花的になってしまって議論が逆に表面的に終わってしまう、時間の制限で切られてしまうことにいらだちを感じる方もいらっしゃる。だから、重要な問題であれば、やりとりの中でとことん時間をかけても良いと思う。ただ、片方が非常に時間をとってしまうということは問題だろうとは思っている。
- ・お話しを伺えた人数が9人でも、充実していれば良いのではないかと思うこともある。十何人、20人いるから良いということでもないし、その辺は今後議論の中で深めさせていただきたいと思う。
- ・参加人数は200人に少し届かなかったということなので、残念ではあった。吉岡委員が言われたように時間帯等も原因かもしれない。それからもう一つ、政策に影響を与えるならば来るというのは、良くないと思う。もしそう思っていられるなら、影響を与えるようにして欲しいということをお願いしたい。

(吉岡委員)

- ・われわれは政策に影響を与える、と公言はしていないと思う。それが目的だと明快に宣伝のポスターに書くとか、別の形で説明書に事前に書いて配布するとか、そういったことをやっていただければ良いのではないかと思う。

(木元座長)

- ・それは市民参加懇談会で一般参加の皆さんにも配付している文書に、皆さんの意見をぜひ反映させていきたいために市民参加懇談会を開くということで、「原子力政策の策定プロセスにおける市民参加の拡大を図り」と趣旨を書いている。それで、ああそうか、自分が言ったことが何らかの形で反映されるということならば参加しようということなら、例えば、会場に来てくださっておっしゃっていただければありがたいと思う。自分はそういう意思で来たのだ、と。

(吉岡委員)

- ・それに加えて、実績を上げること。実績を上げれば呼び水になって来ると思う。

(木元座長)

- ・まだ5回、6回だから実績というところまでは行っていない。市民参加懇談会はこれからである。

(東嶋委員)

- ・今までのお話と関連して4点ほどある。
- ・1つは、東京電力のお答えが長い、東京電力に質問が集中したということに関してだが、ポスターには書いていなくても、やはり当事者が来ると当事者に意見を聞きたいというのは当然だと思う。パネリストとコアメンバーと当事者が同列に並んでいたの、私が市民だったら当事者に質問したくなる。そのところは、例えばコアメンバーの位置づけと物理的な位置とも関係するが、最初にコアメンバーがどういう意図で来ていて、どういうメンバーであるのかをよりよく分かっていたくために、原子力委員会とはこういうもので、市民参加懇談会はこういうもので、コアメンバーはこう

いう立場で来ているということを示し、コアメンバーが一言ずつ名前と立場だけでなく、軽く意見を言った方が良くと思う。最初に意見を表明して、こんな話を今日はしたいということを行った方が、会場の人もこの人にこのことを聞きたいというの分かると思う。例えば、東嶋という人物は知らないが、あの人はこういうことを言ったからこの人に聞いてもらいたいという具合に、もう少し活性化されると思う。先ほど政策に直結するなら来るというお話もあったが、私たちコアメンバーが皆さんの意見を聞いて、反映させていく努力をすると最後に言うという方法もある。

- ・ もう一つは当事者との関係だが、まずはパネリストやコアメンバーに、市民の方から意見を言ってもらって、例えば「東嶋さんは科学ジャーナリストだからこのことはどうなんですか」と聞かれても私は分からないので、東京電力に聞きたいというように、時間のむだかもしれないが、ワンクッション置いた方が、東京電力とか経産省の担当者へのご質問の集中ということにならないので良いのではないかと思う。当事者を前面に出すのなら、趣旨を変えてコアメンバーはフロアにいるとか、その回ごとに当事者が主人公なのか、コアメンバーやパネリストが主人公なのか、少し変えていけるかと思う。

(木元座長)

- ・ 基本的に第2部の主人公は一般参加の皆様である。だから、今おっしゃったようなことを本当にきちんと押さえていった方が良く思う。そうでないと、我々自身は分かっているが、一般参加の方々は分かっていないという状況があったかもしれない。

(東嶋委員)

- ・ 次の点は、技術的な話に偏ったというお話が出たが、特に方向づけしなくても良いと思う。そのとき来てくださった方々に、エンジニアとか定年退職された人が多かったのかなという感じで、そういう方たちの意見を聞く場だったのだと私は理解している。確かに女性が少ないということもあるが、今度は女性をもっと呼ぶためにこの日にしようとか、その会ごとで違ってても良いと思う。
- ・ もう一つは、碧海委員が言われたように、事前アンケートをもう少し効果的に使った方が良かったと思った。

(木元座長)

- ・ 竹内委員は、ご意見はいかがか。

(竹内原子力委員)

- ・ 別用で出席できなかった。初めて欠席した。

(木元座長)

- ・ 加藤委員は「市民参加懇談会 in さいたま」にはご出席にならなかったが、今のご感想等お聞きになっていてのご感想、あるいはこれまでお送りした資料をお読みになってお思いのところをお願いしたい。

(加藤委員)

- ・ 最初からそうなのだが、何のためにやるのか私自身どうもよく分からないところがある。元々の趣旨はもちろん分かっているが。私は今まで3回の市民参加懇談会に出て、実際にやりとりを見て、そこで何が得られたのか分からないと言うと、自分を否定するようで良くないが、やり方も含めて、どういう効果があるのかということがいま一つ分からない。と言っても、私に良いアイデアがあるわけではないが、何となくいろ

いろいろなものがいまままま進められているように思う。

- ・ 今回もアンケート結果を見ると、このような統計のとり方が良いかどうか私はよく分からないが、「大変満足」から「だいたい満足した」方が半分以上ということになっている。このような統計は、今申し上げたような整理の仕方をすればそうなるものだが、むしろ「だいたい満足した」から「あまり満足しなかった」の間の3つを選んだ方が多いということだろう。
- ・ 恐らく参加された人も、先ほど吉岡委員の話にあったように、「今日の話がどうなるのか」と疑問に思っているだろう。アンケートの結果を見ると、こういう意見を持っている人がいるという、それなりに知識のインプットにはなったが、それ以上の効果という、主催者側も参加した方もまだ見えてきていないということではないかと思う。
- ・ 今後継続していくに当たって、先ほどからコアメンバーの位置付けという話もあったし、テーマ設定や開催の仕方をもう少し考えた方が良いと思う。

(木元座長)

- ・ 加藤委員にとって、例えば先ほど言われた「何が得られたか」という点について、何があったらこれは得られたという効果のようなものをお感じになるか。

(加藤委員)

- ・ 1つは、その場で議論されたことが政策に反映されるということを看板の1つに掲げるのであれば、それを実際にどうしたという報告がないといけないのではないか。

(木元座長)

- ・ それは誰に対しての報告か。

(加藤委員)

- ・ その場に来た人及び世の中全体に対してではないか。

(木元座長)

- ・ 先ほど申し上げたように、原子力委員会に報告して、原子力政策策定のプロセスに反映するという事は最初から謳っている。一方で、原子力長期計画(長計)を原子力委員会が作る。そのときには、ご報告をまとめたもの、あるいはもっと個別的に詳しいものがたくさん出ていることになるから、市民参加懇談会にはこういう意見があって、こういうようなお考えが主流であるといったことを、策定のプロセスに必ず言うことになっている。先ほど吉岡委員も言われたが、その説明がまだきちんと行き届いていないという面があるかもしれない。

(加藤委員)

- ・ 私はそれ以前の問題として、問題設定が明確でないと思う。すなわち、今の原子力政策に関して、まずこういう問題がある、という具体的な設定が明確でない。必ずしも政府は明らかにしていないが、例えばこの5つが問題だといったことを、市民参加懇談会としてはきちんと明確にしていないのではないか。

(木元座長)

- ・ 5つ問題があるというのは、例えて言われているのだと思うが、ご指摘の問題というのは、その5つをまず決めるべきだということか。このコアメンバー会議でもいろいろ意見があると思うが。

(加藤委員)

- ・世の中から何が問題かというのをまず出させる、というのも良いかもしれない。

(木元座長)

- ・当初、市民参加懇談会を設置して、まず最初に開催地として候補に上ったのは柏崎刈羽だった。地域で抱えている問題をということで、原子力界で今何が一番問題か、から始めたわけである。それで、プルサーマルを入れない、MOX燃料を装荷しないという住民投票をした刈羽が今一番問題を抱えていて、皆さんが注目している、ということでそこへ行った。つまり、1つ1つのターゲットは絞っていると私は認識している。
- ・例えば、青森開催の場合には、十分にお話できないにしても核燃料サイクルはこれで良いのかということで行っている。ただ、多分、加藤委員も私も同じような意見を持っているかもしれないが、十分な話し合いはまだできていない。しかし、少なくとも問題を抱えるところに行ってトライしているという意識はあるし、コアメンバーの皆さんにもその意識はあったと思う。それぞれの開催地によって、問題を見つめていこうという姿勢はあると思うが、いかがか。

(加藤委員)

- ・姿勢はあるかもしれない。しかし、市民参加懇談会に来る人たちは一般の水準よりはむしろ知識は割合ある方だと思うが、それでも多くの人は専門的な知識はあまりない中で、その人たちに対して、何が問題かということは、スタートの時点からきちんと整理されて示されていないと思う。これが問題だというテーマ設定はあっても、これが現状どうなのかという事実関係が、今までやってきた中では、きちんと整理されているとは思わない。だからこそ論点が拡散するし、ずれてしまうということではないか。

(木元座長)

- ・ご不満はいろいろおありになると思うので、それは是正していきたいと思う。

(加藤委員)

- ・いや、これは不満ということではなく、皆さん相当時間をかけており、この会をやっていく意味を考えるなら、やるべきことはいっぱいあるということであって、不満とかそういう問題ではない。

(木元座長)

- ・不満というのは言葉が過ぎたが、私はそういうご意見が実はとても欲しい。なぜそう思われるか、どこをどう直したらいいのか、という議論から、皆さん方の中からもまた違った見方が出て、醸成されていくものがあると思うので、またご意見をぜひ伺いたいと思う。
- ・加藤委員には、また市民参加懇談会に参加して欲しい。いかに皆さんが必死になっているかということも分かると思う。その中でパーフェクトは出ないかもしれないが。

(加藤委員)

- ・なかなか参加できないのは、日時が決まるのが割合遅いのが原因の一つだと思う。私もこういう会にいろいろ参加していて、政府関係の会合は全体に遅いけれども、市民参加懇談会は、本当に今からここなのかという、もうほとんど予定が決まった後だったりする。

(木元座長)

・このコアメンバー会議で日時も決めてきている。

(加藤委員)

・あらかじめ日程調整の紙はもらっている。

(木元座長)

・その中で調整して、コアメンバー会議で決定するという方法をとっている。確かに日時が半年前から押さえられないのは事実であり、テーマ設定もその都度、一番ホットな 이슈を意識しているので、ぎりぎりになることもあるかもしれない。

(東嶋委員)

・今の加藤委員のご意見につながるのかどうか分からないが、例えば今回の大テーマ「この夏の電力危機とは何だったのか」というテーマだったら、漠然としているというか、実際に出てきたようにいろいろな意見が引き出せる。それはそれとして効果はあったと思うが、ただ、加藤委員が言われたように、例えば要素を5つ挙げて、この大テーマから何が考えられるかという、東京電力が不祥事を起こしたことが1つ背景としてあり、それを問題にするか、実際に皆さん省エネをやったから省エネのことを語るとか、あるいはエネルギーの選択をどうするか、原子力はどうするのかとか、コアになるテーマを5つぐらい決めておいて、話し合いの中で、この時間からは暮らしのことを話しましょう、などと進めた方がある程度は整理はできると思ったのだが、5つというのは、そういうこととは関係なく大テーマのことで言われたのか。

(加藤委員)

・どういうレベルのテーマかという問題ももちろんあるだろう。確かに今回のこのテーマでは何をやれば良いか分からないかもしれない。ここに東京電力の人が出てくれば、精いっぱい説明しようとするだろう。その説明が長くなれば、それに対する質問が多くなるし、東電の説明会のような感じになるというのは、テーマ設定からしてその傾向はかなり予測されると思う。

・本当にきちんとやるのであれば、テーマ設定と、テーマ設定するときその背後にある事実関係の情報を、できるだけ正確にその場を出して説明をしないといけないと思う。

・今まで私が出席した市民参加懇談会では、説明したらある程度専門的になってしまったかもしれないが、十分な説明が行われたという感じを持ったことはない。

(木元座長)

・冒頭の説明で、という意味か。

(加藤委員)

・そうである。

(木元座長)

・もっと長く説明した方が良いということか。

(加藤委員)

・事実関係をきちんと示すべきだということである。

(木元座長)

・事実関係については、敦賀でも青森でも、時間を決めて説明したつもりである。

(加藤委員)

・私は残念ながらそれは十分ではなかったと思う。

(小川委員)

- ・市民参加懇談会は、事実関係をきちんとやるという役目ではないような気がする。だから、加藤委員のご意見は少し違うのではないかと思う。また、原子力委員会の市民参加懇談会なのだから、暗黙のうちに、原子力に関わる核燃料サイクルの問題、高レベル放射性廃棄物の問題、プルトニウム入りのMOX燃料使用の問題など、5つぐらいのテーマは常にベースとして自分たちは持っていると思う。
- ・ただ、人も集めなければいけないし、時事問題というか、時宜にかなったテーマを出さなければいけないので、ベースとしての原子力の問題というのは、原子力委員会なのだから基礎知識としてあるとして、そこで一般の皆様に来ていただいて興味深く話し合っていたくために、そのときのテーマは何なのかという説明をするのは、良いと思う。
- ・テーマによって散漫になってしまうと見られるかもしれないが、もう3年近くもやってきているので、どこにテーマがあるのかというのは、基礎知識として皆さん持っているのではないか。

(蟹瀬委員)

- ・進行した人間としては非常に複雑な心境ではあるが、今回テーマを設定した時点から非常に間口の広い話だということがまず1つある。したがって、半分は一種の啓蒙活動、それからもう半分はある種の問題点をきちんと整理した部分というふうになるのだろうなと意識して話を進めていた。ある程度散漫になるということは、自分の責任を回避するようだが、テーマを設定したときからそういう前提があるものだと私は理解していた。ただ、今のお話を伺っていて、本の目次をつくるような感じで大テーマがあって小見出しが出てくる、その小見出しの整理をもう少しきちんとすると、お見えになった方も理解しやすかったらと思う。
- ・もう一つは、一般の方の反応の中で一番気になったのは、市民参加懇談会という割には市民参加という部分が一体どれだけ実現されているのかというような感想がアンケート結果の中にある。これをどう実現していくのかというのが、非常に重要な要素だと思う。たくさんの人数を聞けば良いという話ではないが、市民参加という色合いをどうきちんと出していくのかというのは大事だなと思った。

(木元座長)

- ・「広聴」と私たちは使わせていただいているが、本当に原子力委員会のこの市民参加懇談会で根づかせたい。これからの広がりを期待してくださっている方も多いので、それは反省材料としたい。

(吉岡委員)

- ・この会は原子力委員会の分科会であり、原子力委員会というのはそんなに権限がない。例えば、我々は安全問題を議論しても良いが、議論して原子力委員会に上げても、安全問題に関しては原子力安全委員会の所掌なので、持っていき場がないという問題がある。例えば、維持基準にしても、こちらは経済産業省の所掌ということで、政策に影響力を与え得るというテーマは案外限られている。しかし、ないわけではない。ここで私がいう「テーマ」は加藤委員が言っている意味と同じかどうか分からないが、重なる部分はかなりあると思う。
- ・ある問題についてどうすべきかで議論するならば、テーマは「この問題をどうすべき

か」という文言にするのがよいのではないか。今回の場合も、「この夏の電力危機とは何だったのか」ではなくて、「～どうすべきか」というように、割合限られたテーマを立てるのが良かったのではないか。例えば「需要ピークをどう下げるか」とか。限定をすれば、フロアの人もかなりそれに沿った話をしなければいけない。

- ・最初から言っているが、私はせっかちで何か成果を上げたいと思っているので、テーマをそのくらい具体的にすれば、提言をするにも、もう少し絞れた提言ができるのではないかと思う。

(木元座長)

- ・需要ピークをテーマに持ってきたらどうかということも、コアメンバー会議で討議したと思う。個別的にそこだけに絞ってしまうと、専門家しか来ないという話もあったし、関連する話題は会の中で出てくるのではないかというご意見もあったように記憶している。実際に市民参加懇談会の中でも話があったと思う。

(吉岡委員)

- ・そういうことを主題とするなら200人ではなく、50人とか100人に絞ってもそれは仕方がない。

(木元座長)

- ・それについてもコアメンバー会議でお話が出た。小規模で多数回開催するのも市民懇のこれからの1つの展開かもしれないというご意見は、皆さんも納得している部分だと思う。

(加藤委員)

- ・今、吉岡委員が言われた中に、原子力委員会はあまり権限がないということがあった。原子力委員会の権限がどうかということは別にして、例えば、それぞれの役所の分担がこうなっていて、どこがどこまで責任を持っているということも、世間では知られていない。これは行政の仕分けの話であり、専門的なことである。しかし、誰がどこまで責任を持っていて、その間に落ちるところがあるとか、どこがどこまでしかやらないからこんな問題が出ているという話は、非常に大事なことだと思う。
- ・私が先ほど言った、事実関係をきちんと説明する必要があるということはそういうことである。今のは1つの例。例えばプルサーマルにしても、青森にこういう施設ができており、最初の趣旨として、30年前はこのつもりだったけれども、今はこうだということを要領よく、しかし事実関係をきちんと説明するのは、15分ぐらいでも十分可能だと思う。そういうことの説明が、ニュートラルにきちんと整理されて説明されたという感じは私はしないということである。

(木元座長)

- ・それは残念に思う。それに関しては、かなりきちんと精査してやったつもりだった。敦賀でも、本当にニュートラルに事実関係だけを説明した。敦賀では、当初なぜ福井県が原子力を導入したかから始まって、現在にいたるまでの事実だけを淡々と説明させていただいた。もう一回加藤委員のご意見を踏まえてチェックしたい。

(加藤委員)

- ・観点としては、行政、当事者、幾つかある。通常、大きく分けると国、県、それから電力会社であり、それぞれが何を決めてどこまで責任を持っているかという事実関係は非常に大事だと思う。

(木元座長)

- ・その説明を入れるべきだということか。

(加藤委員)

- ・それは例えばの話だが。

(木元座長)

- ・正直申し上げて、私は原子力委員になって加藤委員と同じようなことに疑問を感じ、非常に歯がゆい思いをしている。例えば、高速増殖炉「もんじゅ」の件で、設置許可そのものが違反であるというような判決が出た翌日の原子力委員会定例会議の時のこと。議題の中にその裁判のことが入っていなかった。通常は、前の週の金曜日までに議題を決めるが、月曜日に判決が出たから、火曜日の委員会の議題には当然入ると思っていたが、入っていなかった。そこで委員会当日の朝に、なぜ入れないのかと疑問を呈した。当然、原子力委員会としては判決のことに触れないわけにいかないではないかと申し上げたところ、事務局は予定の議題に入っていなかったからと言うので、そのような不可解な会議なら出席に値しない、と反論し、他の委員にも話して、結局、議題のペーパーには書かないが、委員会の場でその件に関して各委員がコメントすることになった。
- ・すべからくそれはどういうことかということ、「もんじゅ」の件は、原子力安全委員会の所掌であって、原子力委員会が取り上げる議題ではないという感覚がある。例えば、事故があったにしても、事故は安全委員会マターであるという解釈のように、今までの流れがある。これは加藤委員も十分ご存じだと思うが、そこをどうやって原子力委員会の市民参加懇談会という立場の中で、取り込んでしていけるかということは1つの挑戦だと思う。
- ・原子力委員会としても「核燃料サイクルのあり方を考える検討会」を9回開催したが、その中で関係のある省庁にも来ていただくようにした。そうして、原子力委員会なりの意見収集をして、またそれをお返りする、やりとりをするという方法をとらせていただいた。そういうことは試みとしてはやっているが、やはり壁はあると思う。それを、市民参加懇談会をどこかで開催するとき、各システムの中の矛盾のようなものも話した方が良いということになるか。

(加藤委員)

- ・当然それはそうだろう。原子力委員だから、などということを考える必要は全くない。極端に言えば、そんなことを考えるくらいならこんなことはやらない方が良いのだと思う。
- ・一般参加の人たちはどこが何をやっているかというのは、全然関係ない。したがって、「皆さん何でも話をしましょう」「いろいろ情報を出します」と話し、だけど、「実は原子力委員会はここのことしかできないのです」あるいは「経済産業省はここからここまでのことをやります」ということを説明すれば良いと思う。ここでコアメンバーが聞いたことを全部自分たちの手で政策プロセスに反映することはできないが、ここまではするということ言えば良いのではないか。
- ・原子力委員会の担当する範囲はここまでのから、この会議もここまでのことしか説明しないし、やれないのだと言う必要は全然ないと思う。そんなことは役所の所管、権限を見ても全然限られていないわけだから。

(木元座長)

- ・「言えば良い」と言われたのは、冒頭に言うということか。

(加藤委員)

- ・いや、冒頭で言う必要はないが、我々の心づもりとして。

(木元座長)

- ・それは皆さん分かっているように思っている。ただ、私自身にまだいろいろな壁があるが、それを取り払って市民の声を聞くということで、現在では経産省も「広聴」という言葉を使ってくれている。そういうような形で広がって行けば、少なくとも長い目で見れば、市民の声が届くに違いないと信じている。もどかしいけれども、それを一步一步進めていこうという気持ちがある。
- ・次回は加藤委員はパネリストとして出ていただいたら良いと思う。直に言っていただいた方が良いかもしれない。

(碧海委員)

- ・少し話が戻るようだが、この間のさいたまの懇談会は今までの中では最も生活寄りでありたいという話だった。そういう意味では、この間の懇談会に関して言えば、もっとアプローチを変えた方が良かったと思う。
- ・くどいようだが、事前アンケートをもっと活用すべきだったという意味の一つは、例えば、「もしも大停電が起こっていたら、日常の暮らしの中であなたは何が一番困ったと思いますか」という問いに対して、「食」に関する答が圧倒的に多いが、なぜ「食」なのか。大停電が起きて、「食」に困るという答が83%。このアンケートというのは極く限られた数だと思うし、データのあまり説得力を持っているものでないにしても、少なくとも非常に生活感のあるというか、素朴な答えである。導入としてそういうところから入れば、女性はもっと発言しやすくなる。この回答は、冷蔵庫か何かを頭に置いているのだと思う。樋口氏が言ったように、私たちの世代だったら大停電になって「食」なんて考えない。その辺が非常におもしろいところというか、今の生活とエネルギーとの関連を表している。そういうところを核にして議論をしておいて、段々と根源の話に持っていくというやり方もあったのではないか。

(木元座長)

- ・それも反省材料である。さいたま開催で感じたのは、市民参加懇談会に参加して政策策定のプロセスに反映できるならば、これは言うぞということでも、なかなか最初は手が挙がらなくて、やっと最初に手を挙げた方のご意見は、新エネの素材の話だった。保水性のある建材の話で、この場を借りて紹介したいというお気持ちがおありになったのだと思うが、加藤委員のお話とも絡むが、これは経産省に持っていく以外にない。そういうものも何っていくのが役割であるし、新エネルギー部会にご報告した方がよいとは思いますが。

(碧海委員)

- ・もう少し思い切って、テーマに沿って整理してしまっても良いという気はする。一般の参加者の方も、ある程度そういう訓練をしていかないといけないと思う。「これは今回のテーマとは違うんですが」と自分で言うくらいなら良いが、全然そんなことは意識せず、勝手に自分のテーマだけを言っている人たちが多い。そういう人は意外と男性に多いように思う。そういう意味では、あえて女性を引っ張り出すのが良いかも

しれない。「そこの女性の方、どうぞ」と、聞いてしまった方が良いかもしれない。

(木元座長)

- ・ご自分が言いたいテーマを持ってきてしまうと、準備した進行の仕方等は無視してでも言ってしまうのだと思う。蟹瀬委員は司会ですごく苦労したと思う。

(蟹瀬委員)

- ・そういう方が多いために苦労することもある。

(木元座長)

- ・加藤委員や東嶋委員も言われたが、当事者が来ていれば、やはり聞きたいということは山ほど出てきてしまうのは、仕方がないことだと思うが、その辺の加減も含めて、次のステップでそれを生かしていきたいと思う。

(東嶋委員)

- ・先ほどから出ている、事実関係の説明問題だが、この事後アンケートの最後のお気づきの点のところは何人かの方が、「判明している事柄を資料としてあらかじめ渡して」とか、「もっと説明してほしい」と書いている方がいらっやって、それを市民参加懇談会の後にも小川委員と少しお話したが、事実関係というか基本的な事柄についてA4、1枚程度でテーマに関連して、例えば事実経過、あるいは今原子力は何%だとかそのくらいあった方が良くと思う。あまり長々と説明すると、どういう立場なのかとか、いろいろ問題が出てくると思うので、今回のテーマに沿った事柄についてだけ、お土産というか、今回来て良かったと思えるような紙がA4で1枚くらいはあると嬉しいと思うので、考えても良いのではないか。

(木元座長)

- ・青森で開催したときは、おっしゃるような資料を参加した皆様のお手元に2枚、配布した。「日本の原子力(核燃料サイクル等)を巡る状況について」というタイトルで資料をまとめた。さいたま開催でもテーマに関連する資料を作成するかという案は確かにあった。しかし、皆さんご存知だろうという考えが全体にあったし、東京電力の不祥事に特化されてしまうために、そこから広がらないのではないかという懸念もあったので、事務局と相談して作成しないことにした経緯がある。
- ・そういう資料があっても良いと思う。もちろん中立的なものしか作成しない。

(犬塚参事官補佐)

- ・さいたま開催では、事前アンケートをとったということもあり、そのアンケートに基づいて意見交換をしたり、ご意見をお伺いできれば、という思いもあった。

(木元座長)

- ・東嶋委員がおっしゃるとおり、そういう資料はあった方が良く思う。

(碧海委員)

- ・例えば、今年の気温と、たくさん使われる年の気温の差とか、そのときの実際の電気の需要のグラフとか、そういう一般の人が普通のレベルで何か言う材料が欲しい。

(木元座長)

- ・市民参加懇談会だけではなくて、いろいろなシンポジウムの中でご意見を発言してくださる方がいらっやると、自分の意見が政策に反映されるだろうということではなく、今持っている疑問をぶつけて来られる。その方が実は重要な場合があるので、なるべくそういう方向をとっていきたいと思っている。結果として、それが政策に反映

できる形になれば良いと思っている。

- ・本日いただいたご意見をまとめて、後日、次のステップでご報告できる機会があると思う。

(2) 次回の市民参加懇談会の開催について  
事務局より、資料市懇第 14-2 号について説明。

(木元座長)

- ・共催可能ならば、共催する団体とかなり長い間話し合いをして決めるので、1 回目の「市民参加懇談会 in かりわ」のときも、碧海委員、井上委員、吉川委員、中村委員、吉岡委員と一緒に行っていただいたが、かなり時間がかかった。延べで3カ月ぐらいかかって、それでいて決まったらその日から1カ月後の日に決まってしまうこともある。加藤委員には大変心苦しいが、日程についても共催相手がある場合にはそういうこともありうる。
- ・開催候補地についてご意見があったら伺わせていただきたい。福島県の方からは、大分以前から、立地町村の中からいつやってくれるのかというお声があると聞いている。柏崎市も、お話しに行ってもそのまま、まだペンディングでそのまま残っている。
- ・また、消費地ということで、大阪などが出ているが、いかがか。

(小川委員)

- ・順番を考える必要はないかもしれないが、消費地、立地地域という順番でいくと今度は立地地域になる。福島県や柏崎市の場合、さいたま開催と同じように東京電力がまた当事者ということで、ご参加いただくことになるということが少し気になるが、福島県がこの会をウェルカムであれば、ホットなときに行った方が良いかなという気がする。各地域のいろいろな事情があって、必ずしも市民参加懇談会の開催についてウェルカムな地域ばかりでないと思う。開催するとしたら、この開催を前向きに受け入れてくれる土地でやった方が良くと思うので、今座長が言われたように福島県が待っていてくださるのなら、福島県が良いと思う。

(木元座長)

- ・福島県と一口に言っても、浜通りの方で開催するのと郡山のような都市でやるのでは、テーマも違って来るかもしれない。

(小川委員)

- ・それはあるだろう。ただ、受け入れてくれそうな、そういう意思表示をしている地域というのは、おそらく原子力立地の浜通りの方だろう。

(木元座長)

- ・そう思う。こちらが主体的にお話を持っていく先としては、共催するとすれば、もし浜通りならば実際に地元で関わっていらっしゃる方たちになるだろうし、郡山なら、郡山の婦人団体とか消費者団体になるだろう。

(小川委員)

- ・福島県がよろしいのではないかと思う。浜通りの方。

(木元座長)

- ・テーマは、何になるだろうか。プルサーマルとか。

(小川委員)

- ・今すぐには思いつかないが、技術的なテーマではなく、信頼とか情報公開とかいうようなソフトなテーマが良いかと思う。まして女性の団体の方と共催となるならば。

(木元座長)

- ・もし、共催すると決め、浜通りの人たちと決めた場合、私たちがイメージした問題とあちらが持っている問題が違ってくる場合もあるだろう。

(小川委員)

- ・そう思う。それは大変複雑ないろいろな問題が生じると思う。共催はかなり大変だと思っている。

(木元座長)

- ・大変とは思いますが望ましい形だと思っている。

(小川委員)

- ・そのときそのときのいろいろな事情で、ウェルカムではないところもあると思う。この市民参加懇談会の開催に関しては、待っていてくださる土地で開催することは、条件の1つとして、魅力を感じる。

(木元座長)

- ・今回のさいたま開催で言うと、ウェルカムではなかったから、参加人数が少なかったと言えらると思うか。

(小川委員)

- ・170人という数は、私はよく集まったと、むしろそう思う。そんなに少ないとは思わない。

(木元座長)

- ・その時間帯としては、ということか。

(小川委員)

- ・そう思う。吉岡委員は大変ご不満なようだったが、私はよくぞ集まってくれたという感覚だった。

(木元座長)

- ・いつの場合でもパーフェクトにいかないと思う。
- ・結局、小川委員のご意見としては、福島でできれば浜通り、テーマは情報公開ということによろしいか。

(小川委員)

- ・何がベストか分からないが、あまりMOX燃料とか維持基準といった技術問題に偏るよりは信頼の再構築とか、文言は後ほど考えるとして、ソフトな問題が良いと思う。

(木元座長)

- ・地元の雇用の問題という声もある。原子力と地元雇用。

(井上委員)

- ・私は、地域的には福島県、もしくは東京電力管内というイメージが全然わからない。今年の2月に福井県で電力会社の社長、副社長がお集まりになって原子力に関する信頼回復委員会を開き、私がお集まりになったときの感じからは、イメージがわからない。そのとき、「東京電力の不正記載が明るみになってから、東京電力さんの対応は地元ではいかがですか」とパネリストの方がおっしゃったら、福島県エリアから来られた方がかなり声高に「何も変わっていません」とおっしゃった。その委員会は2時間ほ

どだったが、その一言から出発して、地元マイナスをもたらす要因とか、雇用などの話が出た。一方で、電力会社はそれなりにシステムを変え、倫理綱領をつくり、体制を変えながらやっていますとおっしゃっても、ほとんどかき消されてしまった。確かに地元の方の本音だし、雇用された者、されない者、生活している方にも利害がいろいろあると思う。また、行政の立場の方にしてみれば、話を前へ進めたい、前へ進めたいという思いもあると思う。

- ・福島県のウェルカムな地域に、たくさんのいろいろな人が来てくださればいいのかとも思うが、東電の問題を地元の方にとってはある種の浄化をしておかないと、もう全然前へ行かないという意味においては「体内浄化」をするような、そういう場にするのならば、良いと思う。もしそうでなくても、きっとそういう意見がまた会場の中に出てきて、さいたま開催のように個人的な思いが先行して意見が集中していき、時間がとられてしまうということもあるかもしれない。
- ・そのあたりの、参加者の方とテーマ設定のバランスをきちんととらないと、とても前へ行かないと、その2月の信頼回復委員会で感じた。しかし、随分時間が経過したし、発電所も立ち上がっており、変化はあるかと思うが、立地地域というのはとても関心のある方とほとんど無関心の方と、関与の深い方、薄い方が、消費地とは違う存在として、あると思う。
- ・したがって、火中の栗を拾うような気持ちでかなりこちらは体制をきちんと考え、資料を整え、何を語るのかということも考えていく準備期間があるならば、確かに良いと思う。時期を逸さないで非常に良いと思うが、一方で非常に難しいところがあるかなという気はする。

(木元座長)

- ・非公開の会議では、かなり本音が出るように思う。公開でも本音が聞けないだろうか。

(蟹瀬委員)

- ・公開だと難しいかもしれない。話の持っていく方の問題でもあると思う。

(吉岡委員)

- ・去年確か原子力委員会が福島県のエネルギー政策検討会と意見交換会をした。福島県の方は原子力委員会との対話を拒否はしないという姿勢で、資源エネルギー庁とは話したくないが、原子力委員会なら話に応じるという、そういう姿勢だったと思う。その直後、東京電力の不正記載問題が起きた。
- ・そして、原子力委員会も含めて、対話にはあまりウェルカムではないという感じに少し動いたような気はするが、ただ福島県は随分エネルギー政策については熱心な県で、さいたま開催のときにも、その検討会の事務局の方がわざわざ来てくださった。我々をウォッチしているし、興味もあるし、条件次第では話ができるかもしれない。関連していえば、エネルギー基本計画を立てる経済産業省の会議でも、福島県は最後まで意見を言ってきた。これはすごいことである。
- ・その福島県の主な意見というのは、サイクル政策を見直して欲しいということと、もう一つは原子力の安全規制と開発推進を分離して欲しいということ、そうした世論が反映されていないから基本計画案はけしからんと、エネルギー基本計画部会の最後の会まで意見書を出してきた。安全規制の方は我々が受けとめても何もしようがないけれども、サイクル政策について話をするというなら、福島県は拒否はしないという気

はする。

(木元座長)

- ・今、吉岡委員は福島県の動静を頭に浮かべながらおっしゃってくださっているが、そうすると福島でやるとすれば浜通りでなく、核燃料サイクルをどうするかということなら都市部になるか、サイトで開催するか。

(吉岡委員)

- ・1つの選択肢として、福島市か郡山市はあると思うが、立地町村で開催する場合には県との関係をどうするかというのはかなり微妙な問題で、われわれが党派的に振る舞うか、あるいは振る舞っていると解釈された場合には、市民参加懇談会は何だ、という反発を招く。それは福島県だけの反発に恐らくとどまらないであろうと思う。

(木元座長)

- ・反発とは、どういう反発か。

(吉岡委員)

- ・切り崩しだという反発である。

(木元座長)

- ・核燃料サイクル推進のための切り崩しということか。

(吉岡委員)

- ・福島県に対する圧力であると、そう解釈されないためにどうするかということは少し難しいと思う。

(木元座長)

- ・先ほど少し申し上げたように、県と地元の方の見解が少し違う。これは、核燃サイクルに対しても言えると思う。双方にご出席いただくか、知事だけでもご出席くだされば嬉しい。そうすると、テーマをまず決めて、郡山あたりということになるか。吉岡委員が言われるようなテーマで、サイトで開催するという手もあるか。

(吉岡委員)

- ・今言ったような注意点を十分踏まえた上で、なるべく中立的にやるというならばサイトでも良いと思うが、ただその場合、テーマをどうするかというのは難しいと思う。先ほど申したが、提言につながるようなテーマにしたいということは、こういう会については常に思っており、その場合、信頼関係とかそういうテーマにしても提言にはつながらないという見解を持っている。

(木元座長)

- ・そうだろうか。反映のための提言にもつながるのではないか。すべてつながると確信持っている。そういうご意見があるからこの政策の場合はこのところを強調してほしいということは言える。したがって、雇用の問題や、情報公開でも何でも提言にはつながるだろうと思っている。報告の中でどんな提言になるにしても、こちら側はずっと中立の立場にいるつもりである。中立でないやり方は、否定しなければいけない。
- ・この間のさいたま開催でも、そういう意味で伴氏にもご出席をお願いしたし、樋口氏もそうだった。そういうバランスをとらなければならないと思っている。

(新井委員)

- ・確かに、吉岡委員が言われたように、一種の切り崩し的なものととられてしまうと、会の性格そのものが違ってきてしまうところがある。さはさりながら、そういうとこ

るで開催しなければ意味がないということだろう。そこのところはきちんと押さえて開催すれば良いと思う。ただし、ずっと言われているように、テーマ設定の仕方は難しい。

(木元座長)

- ・サイトで開催するか郡山で開催するというにしても、場所が決まったらテーマを決めることになる。

(新井委員)

- ・消費地で開催する場合に、資料14-2では、大都市を挙げている。もう少し中小都市はいかがか。広島市や高松市も、一般的な意味では大都市である。

(木元座長)

- ・どのくらいの規模の都市をイメージされているのか。

(新井委員)

- ・こういう言い方は大変失礼だが、例えば木元座長や、樋口氏、蟹瀬委員がいらっしゃって、5万人ぐらいの都市で開催したら、相当の人数が集まるということはまず間違いないと思う。ここでの議論の本質とは違うかもしれないが、一面の大事な要素だと思う。自分のことを話して恐縮だが、私ぐらいでも中小都市に行った場合には、うまくすると100人とか200人ぐらい集まる場合がある。
- ・大都市ばかりどうしても目を向けてしまうが、そうでないところも良いと思う。例えば、さいたま市は東京とほとんど同じような都市だったために、意外に関心を持ってもらえなかったかなという、正直なところそういう感想を持った。人口5万とか3万といった、あまりそういう直接話を聞く機会の少なさそうなところも視野に入れた方が良かったのかもしれない。

(木元座長)

- ・具体的に都市名を挙げられるか。イメージとして。

(新井委員)

- ・私の出身地の日光あたりいかがか。人口1万7千だと思う。

(碧海委員)

- ・たしか塩尻市が6万人くらいだったと思う。
- ・質問だが、福島県で開催する場合、どこで開催するかは別にしても、市民の側は何を言いたいと考えられるか。福島県というと、先ほどからのお話にあるように知事とか町長レベルの話はよく聞くが、市民は一体何を語りたい、何を言いたいかというのが私にはよく分からない。

(木元座長)

- ・私の承っているところだけで話させていただくと、浜通りの方々は、「東京電力と一体になって自分たちは生きてきた。今ああいう不祥事が起きててもまだ私たちは信頼している。なぜならば、私たちの生活のすべてがここに関わっている。ここから脱却するには大変な考え方の転換をしなければいけないし、生活すべてを転換しなければいけない」と。その場合、見えてくるのは、雇用の割合が原子力関連企業に多いという事実がある。これを前にして、どうやって自立する方向に行けるだろうかという不安感が出てくる。そうすると、東京電力と信頼関係を回復して、その上で自分たちはクレームをつけていく以外ないだろうか、ということをお願いするという方もいらっしゃ

る。あるいは、政策そのもので日本は原子力をいつまでやっているんだろうとか、将来的にどうしたらいいのんだろうとか、原子力施設の解体の方まで話がいく方もいらっしゃる。それは福井も同じだと思う。そういう広い意味での共生ということに雇用も含めて、自分たちはどういう暮らしを望んでいるのんだろうかということをお話し合いたいという方はいらっしゃる。

(碧海委員)

・敦賀の場合と同じだと思うが、実際に懇談会をやってみると、そこに参加して物を言う人たちは結局、賛成にせよ、反対にせよ、原子力と縁の深い人たちになる場合がある。そういう人たちの話ばかりになってしまうのではないかというのが、気がかりである。

(木元座長)

・そうすると、浜通りで開催するにしても、郡山市等、あまり関わりの深くない方々に、参加していただくということは可能かもしれない。

(小川委員)

・郡山の場合は共催はなしということになるのか。

(木元座長)

・いや、そこはお話し合いで共催という形は可能だと思う。婦人団体もある。情報収集してどんな団体があるか調べたいと思う。

(東嶋委員)

・井上委員にお伺いしたいが、関西の方では今回の電力危機というのは他人事だったのか。一般の皆さんの意識として、例えば東の方が節電しているから自分たちも節電しなければというものはなかったのか。

(井上委員)

・節電も含めて省エネは当然という空気はあるが、教訓にはあまりならなかった。

(木元座長)

・関西電力に限って言えば、原子力は稼働率が高くて、関西エリアの中で供給されている総電力量の約65%が原子力になっている。

(井上委員)

・そうなるともう必要のあるなしの論議ではなく、福井、いわゆる立地地点というか生産地と消費地のよりよい関係づくりに関心が行っているように思う。

・もし、ある限定された人数で開催するのならば、大きな会場でどなたか1人が10分も20分もお話しなさるスタイルではなく、テーブルトークをして、それを集約しながら全体会へ持っていくというやり方もあると思う。身近にひざを交えて聞くのも良いと思う。

(東嶋委員)

・さいたま開催で、消費地で云々というテーマが未消化だったかなと思ったので、それは西の方の消費地でもう一度できれば良いかとも思って伺った。

(木元座長)

・1テーブルに10人とか15人で、4つか5つのテーブルというイメージか。

(井上委員)

・中華料理的なものをイメージしていただければ良いと思う。

(木元座長)

- ・井上委員が言われた中華料理スタイル、それも1つの手法かもしれない。これは公開で開催するのか、非公開で開催するのか。

(井上委員)

- ・公開でも良いと思う。

(木元座長)

- ・参加者は限定することにならないか。

(井上委員)

- ・当然、120人とか、150人ぐらいには限定することになる。

(木元座長)

- ・手法としては、同じフロアで中華料理スタイルのそれぞれのテーブルで話し合っ、それを第1部として集約し、第2部で代表が報告するというものか。

(井上委員)

- ・テーブルで意見を交換すると、他の方の意見も聞くし、全体の意見も聞けるし、なおかつ壇上に、そこで出た質問をしていただく等すると、時間の無駄がないと思う。全員に意見が聞けて、参加者全員が意見を言えることになる。テーブルには、それぞれ関係者に入ってもらおうと良いだろう。

(木元座長)

- ・どういう関係者が入って行ったのか。

(井上委員)

- ・私たちが1年に1回行ったり来たりで、福井と大阪で開催している会では、福井の生産地の団体の長の人もいれば、一市民もいて、大阪からは消費者の人が皆さんでテーブルを囲んで参加する。そのテーブルそれぞれに関西電力の方に入っていていただく。どんな質問が参加者から出ても、そこで関西電力の方から答なり意見交換ができるという形にしたら、中華料理スタイルだと1テーブル10人で10テーブルあれば100人同時進行で動く。そこから、自分のテーブルではこういう意見が出た、質問がある、ということであれば、またそれなりの担当の方が意見をそこで言っただけという形式をとっている。各テーブル全部マイクを置いておけば、最終的には全部意見を集約できる。

(木元座長)

- ・取材はどうしたのか。

(井上委員)

- ・小さな会だが、取材の方は各テーブルをずっと回っておられた。

(木元座長)

- ・記者席は置けないが、お見えいただいたということか。

(井上委員)

- ・記者の方々は、自由にフロアの中を歩いておられた。

(蟹瀬委員)

- ・資料14-2の「検討事項」の2番目「共催する場合」から始まる項目の通り、テーマを決めるのか開催地を決めるのか、どちらを先にするのかをまず検討した方が良いと思う。そうでないと、なかなかここが良いという意見は出ないと思う。テーマ主体

でいくのか、初めに開催地 福島 の提案があるが を決めるのか。そこがポイントだと思う。

(木元座長)

- ・イメージとしては、何か課題を抱えている地域がどうしても浮かんでくる。消費地の候補として挙げている大阪の方はあまり問題がないようだ。

(蟹瀬委員)

- ・2種類になると思う。1つはそういう課題を抱えているところでその問題点を詰めていく。
- ・もう1つは、全く無関心なところというか、特に直接関係ないところで開催して、先ほど新井委員からも提案があったが、たくさんの人に聞いていただき、啓蒙活動のようなものに力を入れる。要するに参加者数を多くして、そこでいろいろなことを知っていただくと位置づけるか、どちらかだと思う。

(木元座長)

- ・これまでのご議論からすると、次回については前者の流れだったように思う。また、福島県という声が多かったので、浜通りか郡山市という選択になるだろう。その場合、蟹瀬委員が言われたように、テーマがどうなるかということになるだろうと思う。仮に浜通りで開催するとすれば、どういうテーマか。先ほど雇用の問題ということをお願いしたが、共生という形でくるか。加藤委員はいかがか。何か良いご意見がないか。福島サイトでやるとした場合について。

(加藤委員)

- ・全然良いご意見でも何でもないが、例えば埼玉でやるときに福島の佐藤知事のような人に来て話をしてもらおうとか、逆に消費地では立地地域の雇用の話も含めてその都合を話してもらおうとか、消費地の人の感覚を立地地域に持って行って、そこで話してもらおうというようなことをやった方が良いのではないかと思う。

(木元座長)

- ・先ほど申し上げたように、郡山市で開催する場合に、県知事に来ていただいて、サイトからも来ていただくというのはいかがか。

(加藤委員)

- ・郡山とか知事とか、それは1つの例として今はさておくとして、どうもその場所の中で閉じている。例えば、佐藤知事の話というのは福島ではもう相当の人が目にしているわけだから、福島県の中で知事が今更発言しても、そう新しいことにならないのではないかという気もするし、お互い違う地域からの意見がそれぞれ分かるような仕組みというのが必要なのではないかと思う。
- ・もう一つは、テーマを例えば1年間なら1年間決めて開催したらどうかと思う。この間、原子力発電のコストが新聞にも出て、テレビ等でも割と報道されていたけれども、まず例えば原子力発電というのはこういうことで、それをやったら廃棄物が出るので、廃棄物というのは何とか処理するが、処理する方法にはこれだけあり、炉の方も大分先の話とは言え、こうやって処分していかなければいけない。その場合、幾つか選択肢があるというようなことを、コストも含めて、例えばの話、簡単に説明できるのであれば説明して、その上で我々は何を考えるんですかというような問題設定にして、それを1年間続けるとか、2年間ぐらい続けても良いと思うし、何もそのときそのと

きでテーマを変える必要はないのではないかと思います。

(木元座長)

- ・それは原子力発電という非常に大きなくくりの中でのテーマであり、それも一考だと思う。今、資源エネルギー庁でもやっている。電事連がこの間算出した。今まで出てきたものと若干の差が出てきて、実態が見えてきたということで非常に関心はあるだろうと思うが、それを一般の人にどう敷衍(ふえん)させていくか。それをやるとすればぜひお知恵を伺いたいと思う。1つのテーマではあると思う。
- ・その場合、原子力をどう選択するかという究極まで話がいくだろう、あるいは核燃料サイクルをどうするかという話にいくだろうと思っている。加藤委員が雑誌にお書きになっていらっしゃるテーマが入ってくるだろうと思う。それをご議論の中でこれから詰めていくものではあるだろうと思う。
- ・今の段階で、今日こういう資料を用意させていただいて、福島でやるとすれば、例えば郡山でやるとすれば、「知事」と比喩的に例として申し上げたが、立地町村長に来ていただくという方法もあるだろう。どういう形にしる、地元と話し合うということに関してはいかがか。共催という形で開催するというのは。

(小川委員)

- ・可能ならば共催にトライした方がいいと思います。

(木元座長)

- ・そうすると、今、郡山市あるいは富岡、双葉町といった浜通りの立地地域が挙がっているが、郡山は中間だから良いというご意見もあるし、サイトに行けば今度は個別的なテーマに入り込む危険性はあると思う。郡山でやるとすればどうかとか、サイトの方がそれでもやった方がいいとか、何かこの辺のご意見あるか。福島に限定した場合。

(新井委員)

- ・全く個人的感想みたいなものだが、開催するならサイトが良いと思う。なかなか直接的な意見を聞ける場は、私にはないものだから、一度はきちんと聞いてみたいと思う。ただそれだけのことでして、それ以上の深い意味はない。

(木元座長)

- ・サイトでやる場合に、もちろんサイトの町長、それから反対派の方ももちろんお出になるだろうと思う。そういう場合、東京電力の発電所立地地域だが、当事者はどうするか。

(新井委員)

- ・技術的な話がなければ当事者は要らないと思うが。それはもういろいろな形でやっているだろうから。

(木元座長)

- ・当事者が来ると面と向かって言いたいということがまた出てしまう懸念があるか。

(井上委員)

- ・もし加藤委員のアイデアをいただくとしたら、例えば敦賀の市長さんは福島の浜通り同様に、サイトで雇用の問題とか地元の状況とかが日々行政としておやりになっているので、パネリストのお1人として呼ぶとか。

(木元座長)

- ・それはサイトでやる場合か。

(井上委員)

- ・ サイトだろう。

(碧海委員)

- ・ テーマだが、以前にもやった「知りたい情報は届いていますか」が、一般市民の声を聞くという意味で、大テーマとしては「情報」が割に良いと思う。その時々で、何についての情報が届いているかというサブテーマを設け、それはその地域によって違うと思う。でも、何か一般市民が参加しやすい内容がどこかにないと、特にサイトであまり絞られたテーマになってしまったら、もう別に言うことないということになりかねない。

(木元座長)

- ・ サイトだったら、加藤委員が言われた重要な意見だが、コストのことをやって参加者が来るのか疑問に思う。逆に都市の方が来るかもしれない。

(碧海委員)

- ・ コストは一般の女性なんかは来ない。

(新井委員)

- ・ コストは、それでもって議論するというのは専門家だってなかなかできないだろう。感覚的な意見は言えるだろうが、きちんとした意見というのは無理だと思いますよ、常識的に考えて。

(木元座長)

- ・ それは、原子力委員会の本委員会で取り上げるマターではあるかもしれない。

(吉岡委員)

- ・ ただ、コストと雇用というのは非常に直結するテーマである。つまり納税者は支払わなければいけない。原発が仮に非常に経済的に損な施設だとすると、国民負担というのは具体的に要求されるし、立地の際のコスト負担という問題もある。これは高速道路と同じ問題であって、立地点に行って高速道路がないと困るという人の意見だけを聞くというのは、これは非常にまずいので、ぜひ加藤委員にもその場合はパネリストで出ていただきたいと思う。
- ・ サイトで開催するにはコストの問題、それに対する納税者・消費者負担の問題というのはセットで論じなければ、非常に一方的な話になる。

(木元座長)

- ・ そうすると、都市部の方とサイトの方と両方出てきてもらった方が良いか。参加する一般の方として。

(加藤委員)

- ・ 私が今コストと言ったのは、単位当たりのコストとかそういうことではない。それはあくまでも試算だし、恐らく今何人かの方がおっしゃったように、それはあまり関心をもたれない。しかし、こういう選択肢をすると将来、例えば何十兆単位の負担が返ってくる。その選択肢というのは、例えば青森の施設を今どうするかというところでものすごく違ってくるという、大きい流れのことを言っている。そういうことについての情報というのは、必ずしもきちんと提示されていない。

(木元座長)

- ・ それは政策の選択ということか。

(加藤委員)

- ・ そうである。もともとこの会自体が政策の選択肢にいろいろな声を反映するためというのが最初の趣旨だと思うからそういうことを言っている。ミクロの話ではない。
- ・ 吉岡委員のお話のように、高速道路でも原子力でも年金でもすべて、本質は同じである。そこを大きい流れで国民全体の声が1つ1つの選択の局面に非常に大事であるという話は、一番実は原子力政策にしてもこの会議にしても大事だと私は思っている。

(木元座長)

- ・ 刈羽開催のときも実はそういうことがベースにあった。話も少し出た。
- ・ 時間が迫ってきたので、ご意見をまとめると、福島県というところは固まってきている。郡山市で開催するかサイトで開催するか。その場合、共催ができればいいだろうということでもよろしいか。共催できる可能性を少し探してみる。
- ・ 次回のコアメンバー会議は12月18日、木曜日、13時から15時とさせていただきたいと思うので、その間に今日のご意見をまとめる。ぜひご出席いただければありがたい。

(井上委員)

- ・ もしコスト論議ということなら、消費地の方がサイトのその場にいるということは大前提だと思う。先ほど加藤委員が言われたように、消費地からそれなりの方がきちんと出て、いろいろな立場の人間がフェアに存在しているということが重要だと思う。

(木元座長)

- ・ さいたま開催ではパネリストを3人に限定したが、その場合は増やすかもしれない。それはまた話し合わせていただきたい。

(小川委員)

- ・ 共催についてあまりにも難しいようなら、こだわらなくても良いかと思う。要するに、時間がかかって、いつまでたっても決まらないというような場合には、潔く引いても良いと思う。

(木元座長)

- ・ 時期的な問題としては、どうしても今年は難しいから、加藤委員のご意見もあったが、なるべく時間をとって予告できるようにしたいので来年になる。2月か3月、2月がエネルギー月間でいろいろなシンポジウム等あると思うので、あまり重ならない段階でとなると次年度に繰り越すかもしれない。

本日の議論について事務局がまとめ、次回の市民参加懇談会コアメンバー会議等にて各委員にご意見を伺うこととなった。

以上